原田和俊先生　東京医科大学皮膚科主任教授就任を祝して

原田和俊先生、東京医科大学皮膚科主任教授ご就任誠におめでとうございます。数々の業績を残された坪井良治教授の後任ということで大変でしょうが、ぜひがんばって教室を発展させて頂きたいと願っています。

私が教授となってから 2006 年に松江助教授が千葉大学教授に、私の後任には川村龍吉教授が、さらに 2020 年には新宿区の東京医科大学に原田和俊先生と、3 名の教授が中央線の東から西までカバーしたことになり、感慨深いものがあります。

原田先生は平成 6 年ご卒業で私が山梨医科大学に教授として赴任したのが平成 7 年です。原田先生は故玉置邦彦教授、古江増隆助教授のもとで 1 年間研修された後、私が指導を引き継ぐことになりました。原田先生は臨床、研究ともに大変熱心で、すぐに頭角をあらわされました。私も教室をどのように発展させるか腐心していた矢先でした。このような優秀な人材は教室の中よりも基礎の最先端の研究室で武者修行をしてもらうのがよいと考えました。そこで、当時は分子生物学の分野でトップを走っておられた、がん研究所の野田哲生先生のところへ送りました。野田研で conditional KO マウスの作成に携わり、表皮細胞特異的 APC 遺伝子ノックアウトマウス（K14-APCKO）の作出に成功されました。その後、スタンフォード大学に留学、当時、皮膚科領域の分子生物学では第一人者であった Paul Khavari 教授のもとでケラチノサイトの分子生物学研究に磨きをかけて本学に戻ってこられました。先生は基礎的な研究に取り組むと同時に爪の臨床研究もはじめられ、さらに病棟医長として、また、病理組織担当係として後輩の指導にもあたられました。先生は人柄があたたかく、熱心な指導をするので極めて評判がよく、若手から慕われていました。先生が東京医科大学に転出が決まったときは、私も随分と若手医師（特に女医さん）から批判をくらいました。ただ、こうして東京医科大学の主任教授になられたことで私の人事は誤っていなかったと思っています。東京医科大学に移られてからは、坪井教授、大久保教授のもと医局員ともよい人間関係を構築していると聞いていました。坪井教授のあとを継いで、臨床に研究に縦横無尽に活躍され、教室を益々発展されることを期待しています。この度は誠におめでとうございます。

山梨大学　学長　島田　眞路